

	演題番号 1
代表発表者氏名	莊司さやか
共同発表者	津田美和 川口麻里 古田聡 八重田淳
発表タイトル	発達障害のある成人に対するオンラインソーシャルスキルトレーニングの科学的根拠に基づいた実践について考える
研究概要	<p>発達障害のある人は、コミュニケーションや対人関係の問題から就労継続や職場適応等の課題を抱えていることが知られています。一方、コミュニケーション訓練の1つにソーシャルスキルトレーニング（以下、SST）があります。SSTとは、教示、モデリング、ロールプレイ、スキル改善のための正の強化などの手続きを行う、社会的学習理論に基づいた認知行動療法です。発達障害のある成人に対するSSTのプログラムには、PEERS® for Young Adults、Dynamic Interactive Social Cognition Training in Virtual Reality（DiSCoVR）、Assistive Soft Skills and Employment Training（ASSET）など様々なプログラムがあり、コミュニケーションに対して一定の効果があると報告されています。しかし、プログラムの内容に発達障害のある人の意見を取り入れることは重要であるとされているにもかかわらず、発達障害のある人の意見を取り入れたプログラムは少ない状況です。また、COVID-19の感染拡大により2020年以降、オンラインを使用してコミュニケーションを行うことがより一般的になりました。そこで、発達障害のある成人の意見を取り入れたオンラインSSTが、科学的根拠に基づいた実践（以下、EBP）として妥当かどうかを検証し、その効果を明らかにしたいと考えます。また、オンラインSSTが実際の現場で活用可能なプログラムであるかどうかや、その妥当性や評価方法について検討していきたいと思います。さらに、オンラインSSTは就労移行支援事業所や職場など、どのような場所で提供することが現実的に可能かなどの意見交換を行いたいと考えています。</p>
キーワード	発達障害/ オンラインソーシャルスキルトレーニング/ SST 科学的根拠に基づいた実践/ EBP
その他	<p>私たちは、発達障害のある成人に対して、職場でのコミュニケーションスキルを向上させるために、オンラインを使用したソーシャルスキルトレーニングの実践をしています。オンラインを使用したSSTは、発達障害のある人のコミュニケーションや対人関係の問題や、就労継続や職場適応等の課題解決のための支援方法になるのかを考えたいと思います。特に、どのような場所で提供することが良いのかなど、支援に関わる様々な分野の方からご意見をいただきたいと思います。</p>